



第 1 回生田原地域まちづくり会議議事録

日時	令和 2 年 7 月 20 日 (月) 18 : 30 ~ 21 : 30	
場所	生田原総合支所第 1 会議室	
出席者	由利会長、大柳副会長、三浦委員、森委員、中野委員、桑山委員、遠藤委員、生田原総合支所 大辻支所長、総務部企画課 今井課長、中原主幹	
欠席者	高橋委員	
次第	発言者	発言要旨
1 開会	企画課	ただ今より令和 2 年度第 1 回生田原地域まちづくり会議を開催する。高橋委員から欠席の連絡をいただいている。以下の議事進行について、会長に願います。
	会長	前回の会議以降、コロナウイルスにより世の中が一変してしまった。本来ならオリンピックで浮き立つような気持ちで過ごしている時期。明るい見通しが立たない中だが、思考停止しないで地域のことを前向きに考える会議としたい。
2 報告事項	会長	報告事項について役場企画課から説明願う。
	企画課	<p>広報えんがる 6 月号に令和元年度まちづくり会議について、記事を掲載した。</p>

- ・ 2 月 3 日の全体会議で委員 32 名を第 2 期委員として委嘱、町長から講話をさせていただいた。
- ・ 右ページに合併前に行った財政推計についてグラフに示している。各地域は本当ならば財政破綻とも言えるような状況だった。絶対に当時の状況に戻してはならないということをお伝えした。
- ・ 2 月 20 日 ~ 3 月 30 日に地域ごとの会議を行った。生田原は 3 月 16 日に開催

		<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町からの話題提供においては、人口減少の状況、財政の状況、公共施設の状況についてお伝えした。 ・各地域会議においては、「子育て支援」「若者のU I J ターン促進」「ふるさと納税の促進」「観光」その他で「公共交通」「役場職員の問題」「行政の無駄を少なくする」などの意見が出た。 ・生田原地域の会議の振り返りについては、後ほど議事の説明の中で触れる。
	会長	<p>報告事項について質問はあるか。</p> <p>(なし)</p> <p>なければ、議事(1)若者対策について、企画課から説明願う。</p>
<p>2 議事 (1) 若者対策について</p>	企画課	<p>生田原地域の課題・特性・背景についてこれまでの議論に基づいて以下のとおりまとめた。</p> <div data-bbox="435 853 1166 1261" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">生田原地域の課題・特性・背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少 合併時2,517人→現在1,612人(△36%) ・若者・子どもの流出、商店減少、公共交通の維持、空家増 ・福祉のまち ・地域の特長がわかりにくい ・イベント担い手不足 ・役場職員の熱意が足りない ・新しい日常、アフターコロナ対応(臨時交付金4.6億円)  </div> <p>前回のまとめ、今回の討議テーマについては以下の3点となっている。</p> <div data-bbox="435 1323 1166 1731" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">前回のまとめ(今回の討議テーマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者対策(子育て、移住・定住、レジャー) ・高齢者対策(買物、公共交通、福祉のまち) ・ふるさと納税を促進する(返礼品充実)  </div>

1 若者対策

- ・移住・定住施策
- ・空家・公共施設活用
- ・子育て支援
- ・レジャー



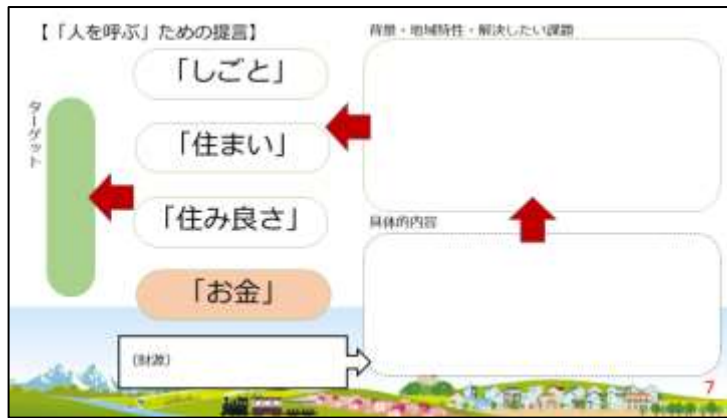
移住促進のため町では「えんがるで暮らす」というパンフレットを作成している。移住を例として、考え方を次のとおりまとめた。あくまで例だが、こういった考え方を参考にしてほしい。



更に詳細な検討例を次のとおりまとめている。



例を参考に若者対策の具体的提言をまとめていただきたい。





会長	<p>今までなら大きな工場などを誘致するというイメージだったが、東京のありようも変わってきていて、オフィスをなくして在宅勤務するような形も出ている。それに伴い東京にしがみつくなきゃいけない必要もなくなっている。都市集中から地方に目が向きつつある。生田原も勝負ができるのではないかと感じている。</p>
委員	<p>今一緒に仕事をしている人が、親が丸瀬布出身で東京から来ている。リスク対策としてこちらにも拠点を置きたいが、空家対策支援は住民票を移さないと使えないため金銭的に難しいという話になっている。制度をもうちょっと緩くしてもらえれば、こちらに軸足を移すということもあるのではないかと。</p> <p>あと、町では地元の高校生が地元で就職したいという数を把握しているか。</p>
企画課	<p>数字を今押さえていないが、企業は地元の子を採りたいけども、残ってくれないというのが、大まかな現状だと思う。</p>
委員	<p>多くは進学ということか。</p>
企画課	<p>就職の子も多くは町外に出てしまうということ。地元に残るのは確か 1 割ぐらいだったと思う。</p>
委員	<p>ターゲットは新卒者でなく、もっと広い意味での若者ということか。</p>
企画課	<p>大学などの場合、どうしても一度外に出てしまう。企業としては地元の子を採りたい。残ってもらえるのが理想だが、うまくマッチングしていないのが現状。</p>
委員	<p>新卒の子を引き留めるより Uターンや I ターンの人を住民票にとらわれずにゆるく引き付けるのがいいと思う。</p>
企画課	<p>完全移住はハードルが高いのでワーケーションもそうだが夏だけ来てくださいという形で関係している人口を増やしていくと住民税が入らなくてもふるさと納税をしてくれるとか、関係が濃くなっていくことで移住につながっていくこともある。そういう人を獲得することも大事だと言われてきている。</p>
委員	<p>空家対策という意味では、実家の空家に対して優遇をすると根付く確率が高くなるのではないかと。テレワークで使ってもらい、空家時は民泊として活用するなど</p>

	ると、お互いにいいかもしれない。
企画課	それをどういう形で支援する？
委員	リフォーム費用を支援する又は建物を壊してプレハブを設置するなどしてもいい。
委員	高校生が地元就職しないということだが、その理由は？
委員	おそらく土建業や農業などはいやで、都会しかないような仕事をしたいということだろう。
委員	高校生にアンケートを取るのが一番いいのではないか。
企画課	総合計画を作るときにアンケートを取ったことがある。
委員	こういうものがあると地元に残るといふ高校生の意見がないと何をしたいかわからないのではないか。置戸町では定住者を集めて町内を探索したというニュースをやっていた。
企画課	置戸の高校生がどれだけ地元に残っているかを考えると、大きな差はないと思う。高校生を残すのは難しいということならば、どういうターゲットにどういう対策をするかということを考えなくてはならない。
会長	介護や保育の専門学校などに行って、町の独自の奨学金を出して、返還を免除する代わりに地元の施設に勤めてくださいというようなことはできないか。
企画課	遠軽だったら、看護師、医師、獣医師でやっている。国でもそういう制度を作ろうとしている。
委員	その間口を広げてはどうか。
企画課	それはどこでもできる政策なので、お金の問題になってしまう。遠軽町では特にひっ迫している医療関係しかやっていない。
会長	長い目で見たら、町の投資として見合うのではないか。 小中学校の段階で町のことをもっと知るようなカリキュラムを組み込んで、ふるさとへの想いを醸成する教育があるといい。企業なども後押しして子どもたちが地域に戻ってきて活躍してくれるような支援を。子どもを引き留めるには大人たちが協力・連携しなければならない。 こういう会議が子どもだけでもあっても面白いかもしれない。
企画課	他の町にはない制度で遠軽町では大型免許取得費用を支援している。40歳未満の若者が一度町を離れたとしても、経験を積んで町に戻ってきて生かしてほしいという思いがある。あと、遠軽町には自衛隊があり、新入隊員は50人以上。これは他の町にはない大きなもの。今年は国勢調査があり、国からの交付税が一人当たり18万～20万円ぐらい入って来る。10月1日現在の人の数は非常に重要。ワーケ

	ーションも10月1日現在で住民票がなくても遠軽にいればカウントされる。災害が少ないというのも強みである。
生田原 総合支 所	コンピューターのサーバーを東京置くのではなく地方に置くという動きがある。それには、光ファイバーの線が太いものがある。沖縄は地震も台風もおそれがあるが、太い光ファイバーがあるということであちらに置かれている。自然災害の少なさで言えば、こちらの地方の方が相応しいのだが、光ファイバーの太さというインフラ面がネックになっている。インフラの整備充実も必要。
企画課	生田原地域には空家でだれが所有しているかわからない建物というのは結構あるのか。
生田原 総合支 所	最近はポツポツ壊されてきている。空家の中でも住めるようなところは少ない。ここ1~2年は家を処分するのに「登記手数料を負担するのでもらってくださいという話が」何件かあった。今は土地・建物が動かないという状況。冬を越せるような家は大体人が入っている。夏の間だけ避暑地代わりに親の家を使っているというケースも何件かある。
企画課	委員が言われたように実家の家を気にされている方が多いのではないかと思う。
委員	遠軽町に住みたい人に住宅を紹介する事業はどうかと思ったが。
企画課	あっせんはできるが、役場が仲介はできない。
企画課	情報を集めて流すだけならできる。地元不動産業者がある中で、町が不動産を紹介すると言っても情報が集まるかどうか。
委員	例えば空家を借りるといったときに助成する制度はないか。
企画課	ない。空家の定義というのも難しい。
委員	家のリフォームだとか、家賃を一定期間補助するといったことをやっているところはある。そういうものがあれば、来てくださいと言える。
企画課	お試し暮らし体験住宅というのはやっている。去年から貸付条件を見直したのだが、それまではホテル代わりに利用する人がほとんどで移住実績が全く出なかった。去年からは町内で仕事をしてくださいという条件にした。年1~2件だが、その方たちは移住に結びついている。
委員	子どもを連れてきて自然の中で育てたいと考える人はいる。そういった人たちに一定程度面倒を見ますよ。仕事も紹介しますよ。そういうものがない限り来てくださいと言えない。手厚くというか。
企画課	要するにお金ということだと思うが、そうなるとお金のあるところの方が有利。違うところでできれば勝負したい。お金じゃないつながり方をどう作れるかを考えたい。


委員	町でテレワーク施設を作ろうという話は出ているか？
企画課	今、具体的な計画としてはない。
委員	テレワークと言っているが、何パーセントがテレワークをやっているのか？数字を押さえている？
企画課	分からないが、東京の0コンマ何パーセントがこちらに来たら、インパクトがあるという話だと思う。
委員	もし、テレワーク用の施設を作る予定がないなら、生田原の空き施設を活用するも手ではないかと思ったが。
会長	町を面白おかしく紹介してくれるユーチューバーに集まってもらうのはどうか。定住促進でネックになるのはボットン便所だと思う。今の人は耐えられないのではないか。
生田原 総合支 所	家の改修費は自己負担だが、浄化槽の設置費については町が負担する制度になっている。町村合併時に下水道整備も検討されたが、浄化槽で対応しようということになり平成28年度からやっている。ただ、高齢な世帯が増えたため普及が進んでいない状況にある。これはあと4～5年やる計画を持っている。
委員	遠軽厚生病院の産婦人科が復活したが、友人は設備の整っている北見で出産することが多い。遠軽で産んだら助成金が出るとか、子どもが入学したら一時金をあげますといったものがあるといいと思う。
会長	遠軽町では出産や入学時に一時金を出すということはやっていないのか。
企画課	町独自のものはない。
委員	若者の本音をどうやったら聞き出すことができるのだろうか？会議やアンケートだと堅い。例えばインタビュー形式とか、個人的には嫌だがSNSを使うなどして堅苦しくない雰囲気でお話を聞き出せる方法がいい。自分が高校生の時はビジネスマナーやメイクの講習の時に、講師のお姉さん方がリラックスした雰囲気の中で「何が流行っているの？」といった話をしたことを思い出した。
会長	遠軽町の成人式は式典だけで終わりなのか？
企画課	式典終了後に祝う会という形で、大人がお汁粉？をふるまったり、お茶をふるまったりしている。
会長	今やっているかわからないが、置戸町では実行委員会を立ち上げて自らイベントをやっている。
委員	遠軽でも実行委員を募集したが、集まらなくてやめてしまった。
会長	今ならリモートでつなげて、成人式に向けて若者のつながりを作ったらいいのでは？

委員	なぜか若い人たちが地元で根付かない。地元においても成人式を自分たちで率先してやることがない。
生田原 総合支 所	進学する理由も「働きたくないから」という子がいる。目標を持っている子は強いが、そうでない子が一定の割合でいる。
委員	学校の先生が、就職希望の生徒を取りあえず学校行きなさいと言う。先生も進学率を上げたいからあっせんする。地元と高校の先生が連携を取っていかないと、地元で根付きたい子どもの意志が活かされない。
委員	若者を定住させる方法がわからない。若い人たちの意見を聞かないとわからないかもしれない。
委員	子どもにしたら、魅力のある職種がないということだと思う。一回は都会に出たいという子もいるだろう。 学校通りの団地に若い人が入っていたが、家賃が高くて出たという話を聞いた。収入に応じての家賃ということだが、家賃が高くて暮らしていけないとなって出て行ってしまうと、もったいない話だと思う。立派な住宅なのに、何でこんなに空いているのかなと感じる。
生田原 総合支 所	家賃については、建設経費と近傍類似家賃を参酌して設定される。公営住宅の目的自体が住むところがなくて、収入が低くてというところであるため、収入が低い人にとっては安くなるようになってきている。例えば年金収入+少しぐらいの収入ならば、北区団地で1万円しないで入れる。新しい学校通団地であれば、収入が一定程度あれば2万5千円ぐらいになる。階層があって月5万円～6万円というケースもある。
委員	家賃だけでなく、保育料などもある。子育て支援策があるなら、隣町に流れるか、となる。
委員	遠軽は民間の家賃が高い。
企画課	遠軽地域まちづくり会議で出た話だが、遠軽は公務員が多いので家賃の手当がある。そういう人が家賃の相場を上げているのではないかと。それを考えると地元の民間企業にはそこまでの制度がないので、家賃手当てに相当するような支援制度があるといいのではないかという意見があった。
会長	家賃の制度を見直せないか。
生田原 総合支 所	根本は法律の中でやっているものなので、難しい。

生田原 総合支 所	地方創生交付金はコロナで収益が下がった企業に使うものではないのか？
企画課	そういうものにも使える。遠軽町ではホテルとかバス・タクシーなどへの支援を独自にやっていて、そちらにも充てる。
企画課	国が1次補正予算から今は3次補正予算まで準備していて、2次補正までの分の金額が示されている。1次補正の金額の中で、そうした被害に対する協力金などに充てている。
企画課	そうした直接的な給付にも使えるが、今後に備えた事にも使えるのでうまく活用したい。
企画課	色々な意見が出たが、若者がどういったことを考えているのか聞き出すといったことや、教育プログラム、奨学金制度、それから、住まいの関係、家賃の高さ、空家の活用、処分、下水道の関係というようなところに収れんされるのではないのか。
会長	また町長にプレゼンをする？
企画課	全体会議の中で提言ができるといいと考えている。
(2) 高 齢者対策 について	<p>会長 (2) の高齢者対策について役場企画課から説明願う。</p>
	<p>企画課 前回の話で以下のような論点が出ていた。</p> <div data-bbox="432 1133 1166 1547" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <h2 style="text-align: center;">2 高齢者対策</h2> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通 ・買物支援 ・福祉のまち  </div> <p style="text-align: center;">高齢者が住み良いまちになるためにどうしたらいいか考えていただきたい。</p> <div data-bbox="432 1603 1166 2009" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【高齢者が住みよいまちにするための留意】</p>  </div>

	<ul style="list-style-type: none"> 資料は全国の自治体による買物支援策について経済産業省の調査結果からまとめたもの。公共交通の確保、公共交通の利用助成、買物代行、ヘルパー、あとは移動販売、宅配などが多く見られた。買物ツアーについては、4件あった。 遠軽町公共交通ガイドについては、町内の交通状況がわかるものとして付けている。
会長	質問、提言はないか。
委員	運転免許証を返している人がいるが、交通の便が悪い中でどうしたらいいか。
生田原 総合支 所	生田原ではデマンドタクシーをやっている。土日はやっていないが、行けるのが清里から水穂まで。普通のタクシーよりは安く使える。高齢者にのりもの券が年間72枚交付されるが、1回につき1枚(100円分)が使えるようになっている。通院などについては、社会福祉協議会の移送サービスで病院と自宅の間を安価で移送するサービスもある。
会長	石北本線、JRはどうなる？
生田原 総合支 所	今すぐなくなるという話ではないと思う。
委員	乗ってくださいといっても、減便や乗換などで不便になってきている。
企画課	沿線自治体で利用促進策を作って、例えば車内販売など色々な取組をやっている。そういうことに対してはJRも協力的に動いてくれている。観光列車も今年運行が決まっている。一方では極端に利用の少ない駅は廃止にしたいという方針もある。
委員	便数がなくなってきていたら、利用したくてもできない。
会長	デマンドタクシーの利用は多いのか？
生田原 総合支 所	手元に資料はないが、多い日だと12件ぐらい、少ない日だとゼロ。経費的にはほとんど町の持ち出しになっている。
企画課	年間1,600人ぐらいが利用、稼働日数が240~250日、経費は主に運転手の賃金だが、370~380万円ぐらい。収入が50万円ぐらい。
会長	安国の人使っているか。
生田原 総合支 所	数人程度。遠軽まで行くときは、タクシー業者を呼び、乗り換えてもらっている。
委員	タクシーも時間短縮している。

会長	買物支援は社会福祉協議会でやっている？
委員	介護認定を受けてもらって、定期的に契約を交わしてやっている。ただ、生田原は遠軽まで行けない。そこが不満になっている。
委員	町として買物ツアーをやることはできるのか。
企画課	可能だが、やることを皆さんが納得してもらえるかということ。
委員	各地域から年1回ぐらい遠軽の市街地を回るバスを民間に委託して運行しては？
委員	遠軽地域の方は足はどうしているのか？
企画課	遠軽には循環バスがあるので、夜間やよほどの郊外の方を除けば、500m程度の範囲でバスに乗って行って帰って来ることはできる。ただし、循環バスについても赤字は町が補助している。
委員	バス停までの距離が歩けない人は？
企画課	介護保険を使ってもらうようになる。
委員	将来的に町が財政負担しきれなくなってバスがなくなってしまうと、自動車を運転できるうちはいいが、乗れなくなった時にどうしたらいい？となる。今のうちに整理をしておかないと困るのは我々。
企画課	お金の問題もだが、運転手が確保できなくて路線がなくなるということも出てきている。
会長	町の施策として優先してやるか、町職員のやる気しだいということではないか。
企画課	これは行政の問題でなくて、皆さんの税金の問題。いくらでも税金を入れていいんですかということになる。
会長	公共交通の既存のあり方を取り払って、高齢者を町のマイクロバスで温泉や買物に連れて行ってお金を町内で使ってもらうようにするだとか、多角的に買物支援も老人の生活支援とQOLの向上だけでなく、もうちょっと広い視点から見ることで、大事な事業だとなってくるのではないか。 これまでの積み上げによるものを切り替えて、もっと生活実感のある予算立てを、アフターコロナとかサステナブルといったような新たな概念も踏まえて考える契機が来ているのだと思う。
企画課	公共交通に関しては本当に難しい問題なので、行政の立場としては利用する方の利便性を一番に最優先するが、遠軽で言うとタクシーの民間事業者が2社、バス事業者もある。そこには雇用が生まれている中で経済も回っている。そういう中で町が無料でバスを運行しますよといったときに、そのあおりを受けるのがバスやタクシー事業者。そして更に赤字を補填するのは町。そうすると倍の赤字を町は抱えなければならぬという負の連鎖につながる。

会長	例えば、北見バスの株主になってもらうのはどうか。	
企画課	そういう発想はいいと思う。利用者の声が反映される。町として即効性があると思うのは高齢者へののりもの券の制度。タクシーも使いやすくなる。	
会長	相応の対価を払ってもらうという仕組みづくりが必要。それで自分のQOLが上がるならば、お年寄りもお金を出すと思うが。	
企画課	でも、生田原でもタクシー事業者があったが、なくなってしまっている。公共交通全体で利用者が減っている。	
委員	白滝のタクシーの事業者が残っているのは何か理由があったと思うが？	
生田原 総合支 所	福祉バスの運転と給食の配送を町から請け負っている。	
会長	互いにウイン-ウインになるいい仕組みを考えてほしい。	
委員	高齢者にリサーチして何を必要としているかを把握する必要があるのではないか。	
企画課	この問題は多くの人ということではなくて、一部の車を運転できない人に向けて確保する必要がある施策だと思う。大勢の意見を聞いたら要らないとなってしまう。	
(3) ふ るさと納 税の促進 について	委員	高齢者対策を解決するのに「ふるさと納税」で財源を確保するのが早い。
	会長	では、(3) ふるさと納税の促進について役場企画課から説明願う。
	企画課	ふるさと納税の促進についてアイデアを出してほしい。 
	会長	ガイドツアーで車を出すと白タクにはならないか。
	企画課	輸送に対する対価はもらわないで、あくまでもガイド料をいただくという形にする。
会長	一部のフィッシングクラブの会員に話したら、「協力する」という反応だった。自	

	分もできることは協力したい。
委員	ふるさと納税にもっと重きを置くべき。遠軽町は専門の職員はいないのか。
企画課	いないが、この6月から商工会議所に受付業務を委託している。受付から返礼品の手配を委託しており、寄附額の一定割合を委託料として払う。寄附が増えると収入も増える仕組みにしたので、町と商工会議所がタッグを組んで取り組む形になっている。
委員	商工会には委託できないか？
企画課	委託先は一者。商工会で受けてもらえるなら、可能性がない訳ではない。
委員	ふるさと納税の獲得は攻めの姿勢で頑張っていたきたい。返礼品リストを見た限り、地場産にこだわるのか、北海道産の中で売れるものを出すのか悩んだ末に商品的に半端なラインナップになっている。その辺の意見を聞きたいのと、受付サイトで遠軽町がヒットするために、目立たせるような方法についても合わせて聞きたい。
企画課	返礼品については、つい最近大阪の泉佐野市がアマゾンギフト券を出して問題になったが、去年の7月から規制がかかって、地場産品、地元で作ったか、地元の材料を使っているものに限られるようになった。それに背くと総務省から指定を取り消されて制度が使えなくなってしまう。
委員	海産物も遠軽町で加工していないと扱えないということか？
企画課	そう。何でも扱えるわけではない。募集サイトの中で目立たせるテクニックについては、お金をかければできる方法はあるが、かけないでできる方法はわからない部分が多い。
委員	お金をかけても見合うと思う。
企画課	見合うかどうかは難しいが、広告料の予算もある程度取っている。それ以外の部分では何が効果的なのか正直言ってわからない。
委員	町内施設のシーズン券、回数券を返礼品にしては？ある施設は全部入れてもいいのではないか。
企画課	遠軽町外の方しかふるさと納税はできない。遠軽が流出超過というのは、遠軽町民が他の自治体に寄附していることで住民税の軽減を受けている額が寄附受入額を超えているということ。
企画課	アイテムを増やすのはいいことだと思う。アスパラが寄附額の半分ぐらいを占めている。ただし、アスパラは生産量が限られるので、これ以上増やせない。それ以外のアイテムを増やす必要がある。
委員	はちみつはないのか。

委員	アスパラだけに限らず、年間少しずつ野菜を送りますというのでいいのではないかと。大量に一時に届くよりも効果がある。	
企画課	いいと思うが、誰がやるかという問題はある。	
生田原 総合支 所	ロットや生産者の確保が課題。町内で野菜を作っているところは少ない。	
委員	メロンはどうか。	
生田原 総合支 所	メロンをやっているのは、1軒？	
会長	エゾウコギは？	
委員	ある。チョウセンゴミシもある。	
委員	フキとかワラビの加工品はないか。	
生田原 総合支 所	占冠村でNPOがそういったことをやっていた。	
企画課	このふるさと納税の返礼品については、物ももちろんだが、小口対応を扱ってもらえるかというのも大事な条件になる。結論は出なくていいので、アイデアは随時受け付けたい。いつでも連絡いただきたい。	
会長	黒曜石の石器づくりは？	
企画課	「ジオパーク」というのが、ネックになるかも知れない。	
委員	はちみつのセットは？	
会長	時間だが、どうまとめるか？	
企画課	時間なので、そろそろ終了の方がいいと思う。全体会議までにもう1回地域会議を開催するか？全体会議はできれば10月ぐらいにやりたい。	
会長	もう1回やるか？	
委員	もう1回やらないと具体的な内容が出て来ないのではないかと。	
会長	町長に向けたプレゼンテーションに向けもう1回やるということにしたい。9月頃にもう1回集まっていたら。	
5 その他	企画課	遠軽町芸術文化交流プラザの建設については、来年7月頃完成を予定していたが、1年延期となった。広報8月号に詳しいことを掲載する。
	会長	公共施設の見直しについて少し説明を。
	企画課	生田原地域の公共施設をまとめて資料を作っている。利用状況なども踏まえない

		と検討できないと思うので、今日は情報提供のみとしたい。
6 閉会	会長	これをもって生田原地域まちづくり会議を終了する。

21 : 30 頃終了